

介護分野受講の皆様へ

平成30年度兵庫県サービス管理責任者等研修

【介護分野】受講にあたっての事前課題

◎ 事前課題

項目	内容	備考
課題①	自己紹介 テーマ ～ 『自分の強み』 *演習前にグループ内で1人1分間の自己紹介をするので、自分の強みを発表してください。自分の強みとは何かを、当日まで振り返ってみてください。	提出書類はありません
課題②	サービス管理責任者等研修では、様々な専門用語等があります。事前に指定の専門用語を調べてから、研修に臨んでください。 *別紙『専門用語について』の項目に沿って記載し、締切日までに下記宛先へ郵送してください。	調べる書籍等によって、若干違いがあるかもしれませんが、各自で調べた内容をご記入ください。
課題③	演習事例の概要を読み込み、今あなたが考える支援の方向性について100文字以内に要約してください。 *別紙『今、私が考える宮本武蔵さんへの支援の方向性』原稿の上段<研修前>に記載し、締切日までに下記宛先へ郵送してください。	1日目の研修受講後原稿の下段<研修後>に支援の方向性について要約していただき、研修受講の前と後で捉え方がどのように変化したか確認します。
課題④	演習事例の概要を読み込み、概要からくみ取れる本人の希望や思い、必要な支援について、ニーズの整理表を作成してください。 *別紙『ニーズの整理表』の項目に沿って記載し、締切日までに宛先へ郵送してください。	1日目の研修受講時に、各グループで作成したニーズの整理表を共有します。研修受講の前と後、他の受講者の意見を聞き、自身の捉え方がどのように変化したか確認します。

◎ 必要な書類

- ・事例概要 → (各演習の初日に持参)
- ・専門用語について → 9月18日(火)までに下記宛先に郵送
- ・原稿用紙(100文字要約) → 9月18日(火)までに下記宛先に郵送
- ・ニーズ整理表 → 9月18日(火)までに下記宛先に郵送

◎ 留意事項

- ・課題③については、研修前(原稿上段)にのみ記載した物を提出してください。
- ・上記記載の書類(事例概要以外)については、下記宛先に締切日までに郵送してください。
締め切り日を過ぎた場合や、内容に明らかな不備(空白等)がある場合は、受講継続できません。
- ・サービス管理責任者等研修の申込みの際に、推薦理由を記載した申し込み責任者の方に、作成した事前課題の全てを確認していただき、各様式に署名と押印をしていただいてから郵送してください。
署名、押印のないものは認められません。

【締切日】

平成30年9月18日(火)必着

【宛先】

〒651-2181

神戸市西区曙町1070

総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり研究所 研修課

「サービス管理責任者研修 介護分野 事前課題在中」(朱書き)

【問い合わせ先】

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

総合リハビリテーションセンター

福祉のまちづくり研究所

研修課

TEL 078-927-2727 (内線3712)

担当：谷垣

整理番号 _____ 受講者氏名 _____

専門用語について

講義、演習を円滑に実施できるよう、事前に下記専門用語の意味を調べてください。

なお、下記専門用語については、一部の抜粋にすぎませんので、下記以外の専門用語についても、この機会に各自でお調べすることを推奨いたします。

	用語	意味
1	アセスメント	
2	モニタリング	
3	ADL	
4	IADL	
5	エンパワメント	
6	リフレーミング	
7	ストレングス	
8	ICF	
9	リカバリー	
10	インテーク	
11	インフォーマル	
12	フォーマル	
13	QOL	
14	ニーズ	

9月18日（火）までに事前課題の案内に記載している宛先へ郵送してください。

上記内容について確認しました。

申し込み責任者氏名 _____

印

「サービス管理責任者」＜事例＞ 事例概要

＜ 分野名 ＞ 介護

＜ 所属機関の種別名 ＞ Y施設 生活介護事業所

＜親の高齢化により、在宅生活の継続が困難な通所利用者を支援する事例＞
～サービス管理責任者の仕事の役割・流儀を考える～

1 支援の概要

・ T市在住・知的障害・54歳・療育手帳A・障害支援区分4。現在、両親と同居。
身長160cm・体重65kg

・ 父が認知症のため、支援の中心である母の負担が増える。母自身も高齢であり、宮本武蔵さんのこれからの在宅生活の維持が難しくなってきた。そのため、今後の本人の生活について現在利用しているY通所施設のサービス管理責任者に母から相談がある。担当相談支援専門員へ相談内容を報告し、今後の支援の方向性について連携して検討することとなった。

2 利用者の概要

(1) 氏名：宮本武蔵さん
性別：男性

(2) 年齢（生年月日）：54歳（昭和39年〇月〇日生）

(3) 生育歴（出生後の経過、学歴、職歴等）

・ 昭和39年T市で生まれる。中学まで障害児学級に通う。中学卒業後市内の親の会が設立した地域のY作業所に通い、現在も利用している。

【Y作業所（現Y通所施設）の概要】

Y作業所は平成7年に社会福祉法人格を取得。知的通所更生施設Yを設立（定員40名）。
看護師、理学療法士は常勤配置されている。

平成22年4月、障害者自立支援法上の生活介護事業所に移行する。平成24年4月ケアホーム開設。
※ケアホームは、平成26年4月の法改正により、グループホームになっている。

(4) 障害について（発病または受傷時の状況、治療経過、現状等）

・ 知的障害 てんかん 心因反応 ・療育手帳A・障害支援区分4

・ 抗てんかん薬を服用しているが、9年間発作はない。50歳の時、精神科病院に2ヶ月入院。
服薬治療を行い、状態が落ち着き退院する。

(5) 家族状況（続柄、年齢、職業、協力関係等）

(父) 82歳。認知症の症状が出現（妄想・短期記憶が困難・夜間不穏）。
介護保険（要介護2）認定。

(母) 77歳。宮本さんの自宅での主な介護者である。母は、認知症の夫と息子の2人の世話をしなければならず、負担を感じている。
母自身も以前に比べ気力や身体機能の低下がある。
介護保険（要支援1）認定。

(妹) 45歳。既婚。子どもが二人。親とは別居。T市在住。宮本さんのことについて非常に協力的。
但し、夫のリストラによる家庭問題があり、今後の協力範囲に限界がある。

(6) 経済状況（利用者及び世帯の収入状況等）

・ 障害基礎年金1級。両親は厚生年金。

(7) 利用しているサービス等と生活サイクル等

・ 月～金曜までY施設に通所。自宅との往復は施設送迎。

・ 自宅では相撲観戦。プロ野球のTV観戦。阪神ファン。理由は「地元の球団を応援したい」とのこと。
春と夏は高校野球のTV観戦。音楽はAKB48等アイドル系が好き。

3 支援の経過 相談とアセスメント

①相談受付～平成30年8月～母からの相談

- ・認知症の夫と息子を支援する母の負担が大きくなり、在宅生活の維持が難しくなってきた。そのため、今後の本人の生活についてY通所施設のサビ管に母から相談がある。

②アセスメントの概要～詳細はアセスメント資料を参照～

<これからに向けた本人の意向>

- ・宮本さんは、若い頃から知っている利用者がいる現在のY施設に引き続き通所を希望している。自宅での生活では、父が退職後に認知症になったこともあり、宮本さんとの折り合いは以前より悪化し、自分自身が不安定になることも増えている。最近、朝に足のふらつきが目立ち、転倒することもあり不安を持っている。

<身体状況>

- ・40歳代はADL・IADL共に自立していたが、徐々に能力は低下。現在は、多くの部分に支援を要する。

<コミュニケーション>

- ・安定時は、言葉による普段の意思疎通は可能。心因反応が出ると、意思疎通が難しくなる。

<健康面>

- ・4年前の入院時から精神安定剤と、その副作用止めの薬を朝・夕に2回服用している。また、抗てんかん薬も日に2回服用。不眠時には頓服として睡眠薬が処方されている。健康管理は、家族に依存し、自ら健康状態を訴えることは困難。飲酒・喫煙の経験はない。月一回母と通院する。

③これまでの支援の概要

<日中活動>

- ・Y施設での支援の概要は、「自宅での生活を送って頂けるよう支援する」を中心に、
 - ①気持ちの安定。
 - ②体力の低下が著しいことから本人の健康状態を適切に把握しながら、必要に応じた支援の実施。
 - ③生産活動として、チラシの折込、紙ちぎり等の軽作業を行う。
 - ④食事前のテーブル拭きを自分の役割だと思い、行っている。

<家族の支援>

- ・主に母とは、連絡ノートによる情報交換と、何かあった際の相談は、随時受けている。

制度の変更について

・グループホームとケアホーム

これまでホームはグループホームとケアホーム(障害程度区分2以上が対象)に分かれていましたが、平成26年4月の法改正により、グループホームに一元化されています。

・障害程度区分から障害支援区分へ

障害の程度(重さ)ではなく、必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものとして、平成26年4月より『障害程度区分』から『障害支援区分』に変更されています。

【アセスメントシート】

1. 調査実施者（記入者）

実施日	平成30年 8月△□日		
記入者氏名	○原×一	所属機関	生活介護事業所・Y施設

2. 調査対象者

対象者氏名	宮本武蔵さん	((男)・女)	生年月日	昭和39年 〇月 〇日生
現住所	H県T市			

3. 障害者手帳等級及び支援区分等

障害種別	知的障害	等級及び支援区分	障害支援区分4	療育手帳A
------	------	----------	---------	-------

1. 生育歴に関わる状況

(生育歴)

- 昭和39年T市で生まれる。中学まで障害児学級に通う。中学校卒業後から市内の親の会が設立した地域作業所に通う。
- 20～40代に掛けては、女性、特に女子高校生に興味が高く、自宅近くの女子高の正門に立って高校生に近づいたり、後をつけたりして何回か警察に保護されたり、高校から厳重注意を受けることがあった。現在は、こうした行動は見られなくなった。
- Y作業所は知的通所更生施設Yを設立（定員40名）。更に新事業体系の生活介護40名に移行したが、本人は継続して利用。現在の法人の事業はY通所施設とグループホームを運営。宮本さんの日中活動は、作業所時代には農作業などを行っていたが、現在はチラシの折り込み、紙ちぎり等の軽作業を行っている。

在胎期	期間	10ヶ月	異常	(有・(無))	
	特記事項				
出生時	異常	(有・(無))	特記事項		
乳幼児期	始歩	1才6ヶ月	特記事項		
	発語	2才0ヶ月	特記事項		
	その他特記				
幼児期以降の保育園・学校・施設等の利用履歴	年月～年月	学校等利用機関名	特記事項		
	昭和45年～昭和51年	T市立〇小学校			
	昭和51年～昭和54年	T市立〇中学校			
	昭和54年～平成8年	T市Y作業所			
	平成8年～	〇法人Y通所施設	看護師、理学療法士は常勤配置されている。		

2. 健康状態などその他特記事項

(健康・医療) 身長160cm。体重65kg

・40歳代は、ADL・IADL共に自立していたが、50歳の時、心因反応により精神科病院に2ヶ月入院。精神科薬を服用。その後徐々にADL・IADL能力は低下。現在は、多くの部分に支援を要する。

・てんかん発作：1日2回の服薬によりコントロールされている。最後の大きな発作は9年前。

健康面での配慮：現在、精神安定剤とその副作用止めの薬を日に2回服用する。健康管理は家族に依存。自ら健康状態を訴えることは困難。飲酒・喫煙の経験はない。月1回母と通院する。

好きな食べ物：グラタン、ベーコンエッグ、パン

3. 家族状況

氏名	続柄	特記事項
M・T	実父	82歳・平成25年9月まで、役員として勤めていた会社を退職。退職後1年位から認知症の症状が出現(妄想・短期記憶が困難・夜間不穏)。平成29年1月介護保険(要介護2)認定を受けた。
M・F	実母	77歳。宮本さんの自宅での主な介護者である。宮本さんは、自宅では、ひいきの野球チームが負けると母に暴力が出ることもある。反面、甘えや要求が向けられる。母は、夫の認知症と息子の2人のお世話をしており、負担を感じている。母自身も以前に比べ気力や身体機能の低下がある。介護保険・要支援1。
宮本武蔵	本人	54歳。
T・M	実妹	45歳。既婚。子どもが二人。両親とは別居。T市在住。宮本さんのことについて非常に協力的。ただし、夫のリストラによる家庭問題があり、今後の協力範囲には限界がある。
T・T	義弟	47歳。リストラなど自分の現状が厳しいこともあり、義兄のことは妻に全て任せている。

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査1】

領域	項目	支援項目	支援度					特記事項				
			1. 支援なし	2. 見守り・声かけ支援	3. 一部間接支援	4. 一部直接支援	5. 全支援					
1	生活基盤	1 経済状況	○					障害基礎年金1級（月81,177円）。				
		2 住宅環境	○					両親と同居。				
2	健康管理	1 服薬管理					○	母が行っている。				
		2 通院					○	母が月に1回同行している。				
		3 発作対応					○	9年間発作なし。				
3	日常生活動作	1 食事摂取			○			義歯・嚥下機能の不安定より、食材によりきざみ必要。				
		2 排尿		○								
		3 排便				○		拭き取りが不完全のため要支援。				
		4 歩行			○			朝にふらつきがあるため、身体を支える必要もある。				
		5 移乗			○			朝にふらつきがあるため、転倒防止等の見守りを要する。				
		6 入浴・洗体				○		一通り自ら洗うが、洗い残しがある。				
		7 入浴・洗髪				○		頭皮を洗う際雑なため仕上げに要支援。				
		8 洗顔			○			確認に要支援。				
		9 衣類着脱			○			着脱衣の際、前後・左右など仕上げに要支援。				
		10 履物着脱			○			身体状況により、イスなどの使用を声かけ。				
		11 歯磨き				○		義歯のため、就寝前に義歯洗浄や仕上げに要支援。				
4	衛生	1 清潔保持				○		散髪は定期的に母と行っているが、一人で行けるかもしれない。				
		2 整容				○		お洒落には興味があり、外出時の服装は自ら決める。				
		3 爪切り					○	母が実施。経験なし。				
		4 掃除					○	自宅ではすることがないが、母の掃除をよく見ている。				
5	家事	1 洗濯					○	洗濯機の使用はしていないが、衣類を洗濯機に入れることは可能。				
		2 調理					○	自らの経験はないが、母の調理場面をよく見ている。				
		3 その他 育児等						非該当				
6	社会生活	1 日常の意思決定			○			不穏・不安定時に、話の整理など要支援。平穏時、分かりやすく伝えれば可能。				
		2 金銭管理				○		渡された小遣いは無くさずに持っている。				
		3 財産管理					○	小遣い以外は、母が年金等を管理している。				
		4 買物（選択）				○		特定の商品を買うことができる。				
		5 金銭支払				○		支払いは千円札で行う。小銭は理解できない。				
		6 地元の地理等の理解			○			地元の通い慣れたパン屋には一人で行ける。				
		7 交通機関の利用			○			経験がない。				
		8 電話の利用				○		数字の理解はあるが、一連の動作については難しい。				
		9 持物管理				○		所持品の管理を他者に依存している。				
		10 予定等の計画				○		予定の理解は可能であるが、組み立ては難しい。				
7	活動・交流	1 意思疎通			○			不穏・不安定時に、話しの整理など要支援。				
		2 対人関係			○			職員と母、パン屋のおばさんとの関係は良好。				
		3 外出活動				○		通所・通院には送迎など要支援。				
		4 余暇活動		○				相撲・野球・アイドルの音楽を自分で見たり聞いたり主。				
		5 近隣との付き合い					○	小さいころから住んでいるので、顔は知られている。				
		6 就労					○	本人の状態から、困難。				
8	安全管理	1 火気管理					○	母が実施。				
		2 戸締り					○	家の鍵にこだわりがある。家に入ったら鍵を閉め、出かける際は閉めない。誰かが入ってきてても閉める。鍵の管理はしていない。				
9	その他	1 緊急時対応					○					
		2 家族関係			○			両親との今後の関係において多くの支援を要する。				
支援項目			ない	時々ある	ある	支援項目			ない	時々ある	ある	
10	行動特性	1 ひどい物忘れ			○			12 支援者の関わりへの抵抗			○	
		2 周りのことに関心					○	13 目的もなく動き回る	○			
		3 物を盗まれた・叩かれたなど被害的になることが				○		14 自傷行為	○			
								15 他者に対して暴力行為を行う			○	
		4 現実にはない話を作話する			○			16 周囲が困惑する性的行動	○			
		5 幻覚や幻聴			○			17 一人で外に出ていくなど目が離せない	○			
		6 泣いたり笑ったり情緒が不安定					○	18 大声を出す・大泣きするなど著しい騒がしさ	○			
		7 同じ話をする					○					
		8 他人の物や金品を盗む等	○					19 物や衣類を壊す行為	○			
		9 色々集めたり無断で持ってくるなどが	○					20 故意と思われる尿・便失禁することが	○			
								21 不潔な行為（便をなすりつける等）	○			
10 昼夜逆転・睡眠の乱れ			○			22 食べられないものを口に	○					
11 周囲が予測できない急な飛び出し	○					入れることの状況	○					

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査2】

			利用者氏名	宮本武蔵さん	
項目	内容	チェック (○・×)	特 記		
7・1 意思疎通の方法について	意思伝達	話し言葉で意思伝達する	○		
		サインやカードで伝達する	非該当		
		身振り手振りで伝達する	非該当		
		動くことによって伝達する	非該当		
		実物を示して伝達する	非該当		
		その他	非該当		
	理解について	時間の概念	○	数字の理解があり、デジタル時計を読むことができる。	
		毎日の日課	○		
		生年月日や年齢を答える	○		
		自分の名前を答える	○		
		自分の名前を書く	○	ひらがなで書くことができる。	
		自分の今いる場所を答える	○		
		自分の住所	○		
	相手の言葉の理解	理解できる	○	不安定時は、相手の言葉が入らないことがある。	
		ところどころ理解する	非該当		
会話・言葉が通じない		非該当			
読字について	・漢字 ・カタカナ ○ひらがな ・数字 ・理解できない				
7・2 余暇・趣味	項目	内容	チェック (○・×)	特 記	
		趣味など楽しみにしていること	○	相撲や野球のTV観戦。アイドルの音楽を自分で見たり聞いたりすること。野球は高校野球からプロ野球まで幅広い。好きな球団は阪神。理由は「地元の球団を応援したい」とのこと。アイドルはAKB48など。野球を見に行きたい希望はある。	
		現在参加しているレクリエーション	×		
		現在楽しみにしている外出先	×		
		現在参加している当事者団体活動もしくは各種社会的活動	×		
		傾聴ボランティアなどの関わり	×		
		その他			
9・家族状況特記事項	主たる介護・援助者の状況	母77才が、宮本さんの自宅での主な介護者である。宮本さんは、自宅では、ひいきの野球チームが負けると母に暴力が出ることもある。反面、甘えや要求が向けられる。			
	介護・援助上の問題点	母は、夫の認知症と息子の間で介護に負担を感じている。母自身も以前に比べ気力や身体機能の低下がある。介護保険・要支援1。 父は、82才。宮本さんにとって父親は、厳格で怖い存在である。平成25年9月まで、役員として勤めていた会社を退職。退職後1年位から認知症の症状が出現（妄想・短期記憶が困難・夜間不穏）。平成29年1月に介護保険（要介護2）認定を受ける。父の認知症の症状やこれまでの関係性から、本人の障害を理解し、一緒に生活することは困難であると考え。妹、45才。既婚。子どもが二人。親とは別居。T市在住。宮本さんのことについて非常に協力的。ただし、現在、夫のリストラによる家庭問題があり、今後の協力範囲には限界がある。			
	家族関係および障害の理解	母・妹は宮本さんの障害状況を理解し、支援を行っているが、父は、宮本さんの障害を未だに受容出来ていない。そんな折、父に認知症が出現し更に困難な状況である。			
10・行動面での特記事項	性格	気になることや要求が通らないことに対して、自分なりに納得が出来ないとイライラすることがあるが優しくユーモアもある。固執性・粘着気質。			
	情緒面	心因反応が出る時は、感情不安定・独語など本人の世界に入り込むことがあり、意思疎通が難しくなる。			
	こだわり等	家の鍵にこだわりがある。家に入ったら鍵を閉め、出かける際は閉めない。誰かが入ってきても閉める。鍵の管理はしていない。			
	パニック等	パニックはないが、不安定になる時がある。			

本人・家族の意向	○宮本さんは、若い頃から知っている利用者がいる現在のY施設の引き続き通所を希望している。 ○母は、父の認知症等、家族状況の変化により、在宅生活の維持が難しいと思っている。
サービス管理責任者の所見	○今後は、本人が希望する現在の通所の継続を前提に、自宅での生活への支援や今後の住まいの場について、様々な角度から支援の方向性を相談支援事業所とともに検討していきたい。

整理番号

受講者氏名

ニーズ整理表

宮本武蔵さんのストレングス

宮本武蔵さんがこうありたいと思う状況

	①本人の思い、訴え、希望すること	②現在の状況	③支援者として気になること	④ニーズ（解決すべき課題）	優先順位	期間等

※①～④は、可能な限り埋めてください。個数については、思いつく限りで結構です。

優先順位、期間等については、記入の必要はありません。

9月18日（火）までに事前課題の案内に記載している宛先へ郵送してください。

上記内容について確認しました。申し込み責任者氏名

印